第７次総合計画

かづの未来会議意見集

鹿角市のあるべき姿とその実現に向けた取組について

令和７年１月

基本戦略１ 活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針１ 地域産業の成長を支援します

- 鹿角高校産業工学科の魅力化と地元産業の魅力向上を結び付け、卒業生が地元就職し、または大学卒業後に鹿角に戻り、地元企業で活躍できるような仕組みが必要。
- 鹿角の農業を育てるためには、専業農家の育成に加え、副業や学生など多様な働き手が農業に関わることも重要である。
- 農業への最新技術の導入を推進するだけではなく、鹿角の農業に合った有効な活用法を主体的に指導する機関（JA など）の強化が必要。
- JA の役割が強化され、リードする形での農業の進展は、農業者の意識も変わり鹿角の農業全体によい変化がもたらされる。
- 土地の相続や名義変更等、様々な事情で基盤整備が進まないことにより、遊休農地がさらに増えていくことが懸念される。大きな問題と捉え、より一層整備の推進を図る必要がある。
- 農畜産物の生産は、農業法人等の冬期間の仕事の確保にも関係があるので、多方面から検討が必要だと考える。
- 農業の推進は重要な戦略である。土地と気候に恵まれ、外貨の獲得につながるほか、食料不足に陥ったときに農家は強いと感じる。

取組方針２ 市民等の意欲のある就労・就農を支援します

- 各産業や企業において、女性が活躍できる分野や業務の洗い出しと見直しを図ることで、女性が活躍できる環境づくりに取り組んではどうか。
- 企業が立食パーティーのような気軽な交流会を開催し、求職者と従業員が直接対話できる場を設けることで、従業員のやりがいや楽しさなど生の声を聞ける機会が提供されるとよい。
- 最新技術の導入は初期投資が課題。新規就農者への支援の強化等で活用しやすい制度があれば、導入が進み生産性も向上するのではないか。
- 農業に挑戦することは可能でも、経営を継続していくことが難しい。農業所得の安定化が必要不可欠であるが、農業者同士の交流により知識やノウハウ等の情報交換を促進することが必要。
- 元気に農業を営み活躍している高齢者に焦点を当て、農業が面白いものだとアピールすることで、若者を引き込む一助になるのではないか。

取組方針３　市内外から産業の担い手を確保します

- 女性・若者に鹿角の産業の魅力を届けるためには、楽しそうに働いている姿や鹿角で働くメリットを SNS 等で発信する必要がある。
- 市内で働き子育てをすることのメリットや特別感、楽しさの見える化が必要。

基本戦略2　元気で健やかな暮らしを支える

取組方針7　地域ぐるみの子育て支援を充実します

- 市の子育て支援は、他自治体と比較しても手厚いと認識している。特に、相談窓口をはじめとしたソフト支援が充実していると思う。しかし、子育て世代に制度の周知が行き届いておらず、第2子以降の出産に対するハードルが高いという意識が蔓延していると感じる。
- 子育て世代以外の市民に対しても周知を行うことで、子育て世代の親きょうだいや知人から口コミで情報を受け取ることが期待できるため、子育て世代への間接的な周知効果がある。
- 出産時の支援について、現金の給付のほかにも、子育てクーポンの配付や既存サービスの周知が必要である。

取組方針8　高齢者のいきいきとした暮らしを支援します

- 市の除雪は他地域に比べて丁寧だと聞く。ただし、高齢者の玄関先に寄せられた雪の対応は支援していくべきではないか。
- 要介護者への支援だけでなく、生活において軽度な支障のある介護認定外の高齢者への支援が必要。経済的な負担だけでなく、介護人の就労機会の喪失も懸念される。
- 訪問介護の存在を知らない高齢者が多く、事業の周知に努める必要がある。

取組方針９　誰もが尊重され、社会参加できる地域をつくります

- 軽度障がい者の就労について、現状、支援学校の教諭が本人の適性を加味して就職先を決定している。生徒に対して、市からの支援や、受け入れ企業の掘り起こしを通して就職先の多様化を実現できないだろうか。
- 毎冬、独居老人宅の除雪に難儀している。高校に対して呼びかけを行い、除雪

ボランティアとして高校生を動員するなど、若い人が地域活動の一役を担うような体制の強化をお願いしたい。

- 市内スーパーの車いす専用駐車スペースがあまり利用されていない。車いす利用者だけでなく、妊婦や足が不自由な高齢者にも開放できれば暮らしの安全・安心が高まるのではないか。
- 市民の日常生活に常に英語がある環境を構築し、通訳や会話ができる人を育成していく必要がある。

基本戦略3　快適で安らぎのある暮らしを守る

取組方針 10　衛生的で良好な生活環境を確保します

- 長牛地域では山水を引いて簡易水道を運営している。水道管の図面はあるものの現況と合っていないことが多く、破損しても場所の特定ができないことがよくある。先輩方が元気な今のうちに、施設管理の継続への不安を払拭したい。

取組方針 11　安全・安心な住まいづくりを進めます

- 空き家が獣の住処になっている。有効活用が求められる。
- 空き家について、壊す選択をしがちだが、有効活用が必要に思う。有効活用が地域に活気を生み、安心感につなげられる。
- 空き家をインフラ化できないだろうか。誰でも利用できるとなれば、残って困るものではなく、活用の検討に移ることができる。

取組方針 12　地域に合った公共交通手段を確保します

- 公共交通に代わるライドシェアも検討して、人材不足に対応していくべき。
- バス会社にとっても採算が合わないため、ライドシェアなど柔軟な対応が必要である。
- ライドシェアは狭い道も通れるため、利便性が高まる可能性がある。
- JR花輪線は学生にとっては命綱だが、大人にとってはそうでもない。また、親による学生の送迎もあり、利用が減る現状にある。本当に必要なのか、行政が検討する段階にあるのではないか。
- 市民アンケートでは、地域公共交通の不便さが永遠の課題のようになってい

るが、高齢者等の当事者はうまくやり繰りできているのではないか。そうした人たちの状況を把握し、広げていくことが、課題解決につながるのではないか。

- 大湯地区は店が少ないため花輪や毛馬内まで行く必要があるが、バスの本数が少ないため、特に高齢者にとってのまちなかエリアへの交通アクセス向上が必要不可欠である。

取組方針 13　ごみの適正処理と資源リサイクルを進めます

- ごみ処理に関する市民満足度は高いが、ごみの出し方や処理には個別に問題があるように思え、満足度で一括りにされると見えない部分がある。
- ごみ処理場は、老朽化により燃焼力が弱くなっている。市民もごみの分別に協力していくなどの意識付けが必要。

取組方針 14　緑と水の映えるまちの環境を守ります

- 農業用水路等の管理について、現在は 70 代がメインで管理しており、高齢化が課題となっている。
- 農地の管理について、自分の土地の周りで耕作放棄地・不作付地化が進んできている。荒れた農地に鹿が頻出しているが、いずれイノシシも出るだろうと予測しており、さつまいも等の農作物に被害が出るのでは、と危機感を抱いている。
- 豊かな自然に対し、市民でも生活面で意見や文句を言うことが多い。ただ、水も緑も貴重なものであり、市外の人から見たら我々とは異なる価値を見出せるのではないか。

基本戦略 4　暮らしの安全・安心を高める

取組方針 15　災害への対応力のある地域をつくります

- 鹿角市には2名の防災士がいると聞くが、頻発する災害に対応するため、更に増やしていけるよう積極的に育成していくべき。
- 災害時には水の確保も重要である。例えば、井戸水が濁った場合にろ過装置をどうするかという問題も発生する。比較的水が豊富な鹿角市では、意識が低くなっているのではないかと思う。
- 四方を山に囲まれた鹿角市の地形を考えると、災害が発生した場合、地域全

体の孤立が考えられる。

取組方針 16　火災や救急に対する体制の強化を進めます

- 消防団員の減少要因として、活動が十分に周知されていないことが挙げられ、活動に対する知識を得る機会も少ない。花輪地区では消防署が近いため、消防団員が必要かという疑問がある。
- コミュニティの希薄化が進んでいる中で、消防団員が定期的に各家庭を訪問することは、人とのつながりを維持する一つの手段だと思う。
- 未だ飲み会が多い、もしくは強要されるのではないかというイメージが払拭されておらず、コミュニケーションを苦手とする一部の若者にとってはハードルが高い。
- 未来に向かって若者たちが活躍できる消防団活動の在り方を考える必要がある。訓練大会が重視されているが、実際には火災現場では消防署による消火活動が多い。人口減少が進んでいく中で、消防団活動も含めてスリム化が必要。
- 消防団員の高齢化も進んでいる。

取組方針 17　災害に強いまちの基盤整備を進めます

- 集落に通じる橋の維持について、土砂崩れ等での影響による集落の孤立が懸念される。（3橋のうち1橋が通行不可の状況にある。）
- 鹿角市は面積が広大であるため、道路管理が行き届いていないと感じる。特に冬場の凍結や融解の影響による道路の穴空きが目立つ。
- 冬は除雪により、どうしても道路幅は狭くなる。しかし、冬期間も災害は発生するため、災害を見据えた道路拡幅が必要ではないか。
- 停電が多くなっている。かづのパワーの有効活用も安心・安全・快適な暮らしにつながるため、電気にも注目すべきと考える。
- 停電については、倒木が多いという認識。周りの環境を維持する必要がある。

取組方針 18　防犯や交通安全を進めます

- SNS被害による消費者保護を拡大していくべきではないか。
- 高齢者ドライバーの操作ミスによる事故が全国で相次いでおり、市内での発生に不安を感じている。免許の自主返納が呼びかけられているが、返納すべきボーダーラインの設定が必要ではないか。また、高齢者に対しては、講習の頻度を高くすることも必要。

基本戦略５　未来に羽ばたく人材を育てる

取組方針 19　子どもから青少年までの生きる力を育みます

- 市内の学校で勤務する若手教員の多くは、市外出身者である。市出身の教職員を目指す学生の就学支援に注力するなど、教員の UI ターンも促進する必要がある。
- 中高生における SNS 上でのトラブルと不登校児童の増加について、学校側で行う啓発活動やメンタルケアだけでは、対処しきれていない。
- 部活動の選択肢が少ない状況や、人が少なくて大会に出られない、部活動の維持ができないなどの話を聞く。一人の子が野球もサッカーも百人一首も書道もやるような、マルチな部活動があってもいいと思う。
- 部活動の地域移行により、学校以外で活動することが増えた。これにより、送迎の回数が増えるなど、保護者の負担が増えている。
- サッカーやバスケットボールでは遠征が多く、親の送迎が必須な状況にあり、部活動における親の負担が多いと感じる。仕事の繁忙期と重なることもあるため、対応できないこともあり、昔のように親の会など全体で子どもたちの面倒を見る体制に戻ってほしい。

取組方針 20　地域の特色ある教育活動を実施します

- 本市は南北に長く、小中学校の交流が少ない。各校の行事に招待したり、オンラインを駆使したりしながら、生徒間交流を促進してほしい。
- 将来就きたい仕事について、市内にある仕事を知る機会を増やしたり、鹿角市が抱える課題について考える機会を創出し、子どもの地元就職や UI ターンに対する意識の向上を図ってほしい。
- 三校が統合して鹿角高校になってから、専攻分野が入り交り、特徴が見えにくくなった。鹿角高校の教育方針を確立させることでブランド化を図り、市外からの入学者を増加させる必要がある。

経営戦略１　まちに人・モノ・外貨を呼び込む

取組方針 22　人や地域の活力を生む交流を促進します

- 二拠点生活の支援も必要である。現在の国の制度は、住所を移せば支援するというスタンスだが、数週間滞在しても支援する制度が必要ではないか。
- 国際交流や友好都市の見直しが必要である。武威市に関してはほぼ交流がない状態が続いている。遠方ではなく、近隣のアジア圏に友好交流都市を設けられれば、観光やビジネス交流が盛んになるのではないか。
- 武蔵野大学とのかづのキャンパス構想を充実させてほしい。大学のサテライトキャンパスが実現できれば、スポーツや勉強合宿などの可能性も広がる。

取組方針 23　販売重視型農業と 6 次産業化を進めます

- 農畜産物等の地域ブランドを新たに開発してはどうか。北限の桃については、栽培面積もっと増やせればよいと思う。
- ブランド農産品は特定の分野に特化し、競争力を高めていくことが効果的ではないか。
- 熊肉等のジビエ販売により、外貨を獲得する。有害鳥獣の被害対策にもなる。
- 地域資源を活用した付加価値の創出には、中核となる組織が不可欠である。商品開発やプロモーションを統括し、行政や商工会、地域事業者の連携強化が必要で、道の駅おおゆに期待する。

取組方針 24　稼げる観光振興を進めます

- 花輪ばやし交流会に外国人がよく訪れるが、英語を話せる人がおらず、困っている。観光振興のためのイベントを実施し、対価としてお金を貰っていても、果たしてこれでよいのかと考えてしまう。市民の日常生活に常に英語がある環境を構築し、通訳や会話ができる人を育成していく必要がある。
- まちの案内人をしているが、あんとらあには訪日外国人旅行者が多い。案内人が英語を話せれば、外国人旅行者とのコミュニケーションが充実する。
- アルパスのインバウンド利用を考えられないか。施設利用者はスポーツ関係者に限られているが、インバウンドの利用を促すことで新たな外貨獲得につながる。
- 持続可能な財政基盤の確立には、収益事業の創出が必要。例えば、あんとらあでの太鼓体験において 270 度モニターを設置し、花輪ばやしを疑似体験できるコーナーをつくる。各町内の募集リンク（二次元コード）を表示すると、担い手確保にもつながる。
- 外国人向けの観光PRが弱いと感じる。店舗での外国語表記やメニュー表記が近隣自治体よりも少ない。

- 稼ぐ観光を目指すのであれば、突き抜けてエンタメ化を目指すべき。
- 稼げる観光を目指すのであれば、ビジネス化に積極的に取り組むべき。ストーンサークルでの結婚式は良かったと思うのでそういった利用や、周辺をキャンプ場として整備することで、人が集まるのではないか。また、他の祭りでもやり始めているが、花輪ばやしでも、有名なシェフを招いて地元の食材を使った料理を提供するなど、ハイエンド層を意識したアリーナ席の用意が必要になってきていると思う。

取組方針 25　スポーツの力でまちの魅力を高めます

- スポーツ支援が不足している。「スキーと駅伝のまち」と標榜しているが、鹿角市は駅伝というイメージがない。駅伝のまちというためには、鹿角高校をブランド化し、指導者や選手の生活環境を充実させながら、全国に名を広げられるだけの取組が必要である。
- アルパスは設備が充実しており、良い環境だが、実業団や有名大学には使われていない。有名大学の合宿を呼び込むためには、鹿角の名前をもっと全国に売り、活用してもらうためのアプローチが必要である。
- スポーツ少年団の指導者に対する経済的支援を手厚くすることで、若年層に興味を持ってもらい、指導員の掘り起こしを行ってほしい。

取組方針 26　次世代産業の創出に取り組みます

- 相談窓口や成長段階に応じた適切なサポートなど、起業家の成功を後押しする環境を整えることで、鹿角に活力が生まれるのではないか。 現状のまちなかオフィスでは起業支援機能として不十分。
- シェアオフィスの有効活用には、需要創出が課題と感じている。テレワーカーや地域起業家、地域外企業をターゲットに据え、鹿角の自然や地域資源を活用した事業の可能性を PR し企業誘致を強化して欲しい。

経営戦略 2 「世界遺産のまち」をつくる

取組方針 27　文化財の保存に取り組みます

- 昔は遺産や文化財と生活が密接していた。今はかけ離れているため、保存する人と近くに住むが関係ない人に分かれている。原点に立ち返り、ただ保存す

るのではなく地域密着型にして活用していく必要がある。

- これから守っていくのは若者や子どもたちになるが、文化財や遺産の何を未来に活かしていくのか具体的に検討すべき。
- 八郎太郎の話は災害を克服する話につながるが、教訓としてそういった伝承等も現在につなげ、さらに生活にどのように活かしていくかを取組に加えるべき。

取組方針 28　ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます

- 稼げる観光と文化財の保存は融合できるのか。お互いがそれぞれの方向を向いていても仕方がない。地域住民を交えた関わり合いが必要。
- 「世界遺産のまち」について、どれだけ市民ニーズがあるのか疑問に感じる。大日堂舞楽はともかく、花輪ばやしや毛馬内盆踊りは沢山ある中の1つという位置づけであり、それぞれの地域で頑張っている中で、鹿角市に注目を集めるのは難しいのではないか。
- 「世界遺産のまち」については、行政の一人歩き感が強いと感じる。市民の意見で始まった取組であれば共感できた部分もあるが、急に決まって上から降ってきたイメージがあり、ポジティブに捉えることが難しい。実情はわからないが、市民不在の典型的な例に感じる。市民と行政の感覚にギャップがある。
- 世界遺産は負債ではないか。草刈り等の費用や人件費、設備の維持管理費用が掛かっていることに加え、ストーンサークルのために道路を通す話まである。世界遺産という言葉自体は知名度があり箔がつくが、実際内容は知られていないことが多いのではないか。何十億円も掛けるだけの価値はないと感じる。
- 市外からの観光客の意見を聞くと、芝生を歩いて終わりで残念という感想が多い。AR グラスを掛けて移動しながら縄文時代のストーリーを見せることや、オンラインでの VR 体験などが必要ではないか。
- 世界遺産全てで体験をコンセプトとした商品があっても良いと思う。こういった総体的にセットで盛り上げる必要がある。
- 遺跡ガイドについては、人員不足で同じ人が頑張っている状況にある。AI や AR・VR の活用などを積極的に進め、ガイドの人数を減らしてもよい環境を構築すべきと考える。
- 世界遺産の維持について、稼げるのであれば保存も可能と考えるが、維持が大変なのに稼げないのであれば、向かうべき方向性が正しいか検証が必要と感じる。
- 市内でも地区外の人は文化財や遺産のことを知らないことが多いため、義務教育の時点から地区の垣根を越えて地域住民の知識レベルを上げる取組が必

要と感じる。

- 観光の話をするとお金の話になりがちだが、文化自体はお金目的で始まったものではないと思う。楽しいや面白い等で始まったものが多いと思う。そういった中でお金の尺度だけで考えると、予算が多い地域に負けてしまう。本来の部分に立ち返り、踊ることが面白いとか太鼓を敲けば賑やかになって人が集まってくるとかに着目して、他の自治体と差別化していくべきと考える。
- お金がいい悪いという話ではなく、お金を沢山払ってもらえるということは、それだけ価値があると感じてもらえたということであり、稼ぐことは必要に思う。人材も使い設備投資もして稼げませんでしたでは済まない話である。世界遺産に投資している以上、稼げる観光を目指してほしい。
- 儲けたい人の意見を取り入れていくのは面白いと思う。田舎の人はお金を持っている。そのお金の使い先を決めてあげることが重要。（推し活を想定。）

経営戦略３　まちの経営力を高める

取組方針 29　効率的な行財政運営を進めます

- 未利用土地や未利用施設を活用しきれていないと感じる。
- 貸付がされていない未利用施設は、使いたい人がいても老朽化や賃料が高い等の課題が多く、利益が生み出されていない。
- 公共施設の削減は、将来を見据えて今から取組まなければ未来への投資ができなくなる。
- 未利用施設の利活用についてニーズを調査する視察ツアーを行った上で、ニーズが低い施設は優先的に解体していくのはどうか。
- 子どもの部活動で草木小学校の体育館が利用できれば今よりも楽に練習ができると感じている。一時的にでも利用できればよい。
- 末広小学校が避難所となっておらず、最寄が錦木地区市民センターである。今ある施設の有効活用も必要ではないか。

取組方針 30　未来技術の導入を進めます

- 行政手続きのデジタル化は、新しい手続き等の方法が分からない人や支援が必要な人も多いため、誰にでも届き活用できるような仕組みとし、誰一人取り残されないよう進める必要がある。

- 市民はテレビや SNS、動画配信サイトなど、多様な情報ツールを活用しており、これらを通じて情報を発信することで、市政の透明性が向上するのではないか。
- 市民が市政に興味を持つよう、情報発信を強化すべき。特に、次世代を担う若年層への情報発信・市民育成を行う必要がある。
- 行政機能の窓口など、民間に積極的に開放していくことができれば、官民連携でより高い効果を発揮できる。
- デジタル化は民間を含めてまち全体で進めていかなければならないが、鹿角市の場合、行政機能のデジタル化だけ進んでいる。

取組方針 31　多様な主体の力で共に発展するまちづくりを進めます

- 今後の未来において、若い世代の力を活用することが重要。世代を超えた交流は、互いに見えなかったものが見えてくるし、共通の目標に向かって協力し合い、より多くの力を発揮することが可能となる。
- 鹿角市は、以前暮らしていた近隣自治体より、地域のコミュニケーションが活発だと感じる。地域を活性化していくためには年配の力も必要。
- 地域活動をするにあたって、人数が少ないことから一部の人にかかる負担が大きい。単一の自治会活動ではなく、近隣自治会と共同で活動することで人数が確保できる。
- 多くの自治会で人数が少なくなっているため、ある程度の自治会を合併することで、地域活動を維持する必要がある。
- 自治会に入会する人が少なく、様々な活動が停止しかけている。地域住民の協力・連携が取れないことで、安全にも影響が出ている。

取組方針 32　コンパクトなまちづくりを進めます

- 地区によっては店がないという課題がある。空き家を利用し、集約化を進めることで、お互いがカバーし合える環境になると思われる。また、廃校を利用することで、移住や地区移転等における住環境としての利用やNPO法人等による学びの場としての活用ができるのではないか。

その他の事項

- ウェルビーイングの課題感と今見えている課題に繋がりがあるか見えない。理

想では解決に結びつかないため、今ある課題の解決が重要だと感じる。

- 市職員も市民の一人という感覚を持って頑張ってくれていると思う。行政と市民を切り分けるのではなく、市民も行政が行っていることに入っていく必要がある。文句をつけるばかりになってはいけない。
- 市議会議員が市民の話を聴いて行政に届けることをしてくれたらいいと思っている。
- 市議会での一般質問のライブ中継に加え、委員会も中継することで、市政の情報がより多くの市民に届きやすくなる。議員自身が市民に向けて堂々と発信できない状況であれば、議員数の適正化も検討すべきである。
- 市民参加型のまちづくりには、市民が主体的に政策提案や実行に関わる仕組みが必要である。そのためには市民教育が必要であり、予算配分と優先順位を市民と共有し理解を深めることで、市民参加型の仕組みになるのではないか。
- 市職員の人材育成が、行政サービスの質の向上だけでなく、効率的な業務運営を実現する。業務効率化にはアウトソーシングも有効だが、単純な業務の外注化ではなく職員の人材育成に寄与する委託になるべきである。また、民間の手法を参考にした職員への評価制度を導入し、改革への主体性を高める仕組みをつくってはどうか。